編集後記

砂原先生の問題の捉えかた，そしてそれにもまして表現の巧みさはいつも敬服しているところであるが，本号の総説「老人の結核」も，先生特有の文章で，結核の問題の中でも今後なお問題として残されていくであろう老年者の結核について，問題点を展開しておられる。今日，結核はかつての青年病ではなく，患者数からも死亡率からも老年病の様相を呈してきていることは周知のとおりであるが，それは単なるかつての青年期結核の遺産だけではなく，発病の老齢化が大きな比重をもつていることが指摘されている。そこには，寿命の延長とともに，われわれがさけて通ることができない老化という現象と結核発病という，今後の大きな課題が示唆されている。更にこれまたさけられない各種の老年病が合併症として（どちらを合併症というべきかとも思うが）存在し，むしろその方が重点的に取扱われねばならないことが多いことから，一般臨床医に結核に対する警戒心とともに，結核病学の知識が要請されることを説いておられる。私どもが折にふれて見聞する結核患者の実状からみても，ここに記された問題はむしろ一般の臨床医に，特に結核問題について関心のうすくなつている若い医師に読んでもらいたい問題だと痛感した。

下出先生の今村賞受賞記念論文は結核病学会のときにも拝聴したが，そのときの座長の謝辞にあつたように，わが国における特に Mycobacterium kansasii 症の臨床像を明らかにされた努力に，改めて敬意を表したい。

山村先生の第53回総会特別講演「ミコバクテリアと細胞性免疫」については今更論評を加えるまでもない。そこには実験的結核性空洞の問題からツベルクリン活性因子，更には結核性菌体成分に関する問題と，一貫して細胞性免疫を背景として展開された研究成果，そしてそれが癌の免疫療法と進展してきた先生の life work が画かれている。しかしこの長編ロマンはまだまだ未完であり，今後人類の夢である癌の治療から更に予防へと発展していくことが期待される。

終わりに一言。学会誌は原著論文が中心になるのが本当であろうと思うが，最近の本誌は残念ながら，原著論文が大変少ない。束村先生の孤軍奮闘がめだつ。これは私どもにも責任があるわけであるが，何とか原著論文がふえるよう努力したいものである。会員各位のご協力を期待する次第である。

（伊藤文雄）

訂　正

Vol. 53, No. 10 に誤りがありましたので，謹んでお詫びし訂正します。

○ p. 513　右段下から6行目　A. **V**. Hill→A. **B**. Hill

○ p. 516　右段上から7行目　**事**実→**時**実（ときざね）

結　核　第53巻　第11号（11月号）　毎月1回15日発行

昭和53年11月10日　印刷　　定価700円（〒共）

昭和53年11月15日　発行　　（振替）東京 4-53756

編集兼発行人　五味二郎　155 東京都世田谷区代田 2—3—15

発行所　日本結核病学会　180-04 東京都清瀬市松山 3—1—24 結核予防会結核研究所内　電話(0424)91-2540

（ただし，原稿については“101 東京都千代田区三崎町 1-3-12，結核予防会内「結核」編集係（電話 (03)292-9211(内線)59番)”にお願いします。）

THE JAPANESE SOCIETY FOR TUBERCULOSIS

c/o Research Institute of Tuberculosis, Japan Anti-Tuberculosis Association, 3-1-24, Matsuyama, Kiyose-shi, Tokyo 180-04 Japan

印刷　サンコー印刷株式会社